臨時離着陸場での安全管理

◆ダウンウォッシュに対する安全管理

ア　ヘリコプター（以下「ヘリ」という。）が離着陸する周囲の場所は、飛散物（屋上構築物、看板、アンテナ、鉢植え、バイク、自転車、洗濯物等）がないことを確認する。場合により、ロープや粘着テープ等による固縛を実施する。

イ　砂塵等の飛散の可能性がある場合は、40m四方を基準として十分な散水を実施する。

ウ　風下側に、警戒員を配置する。

エ　地物の破損や飛散など不測の事態が発生した場合は、直ちに無線等を使用しヘリに連絡をする。

オ　車両（救急車）部署位置はⒽマーク地点から 30m以上離し、ダウンウォッシュによる砂塵から車両を保護するため、ドア、窓は閉めておく。

◆航空隊への情報提供

ア　臨時離着陸場における散水等の実施状況

イ　地上の風向・風速

ウ　臨時離着陸場周辺の障害物（立ち木、高圧線、電線、照明等）

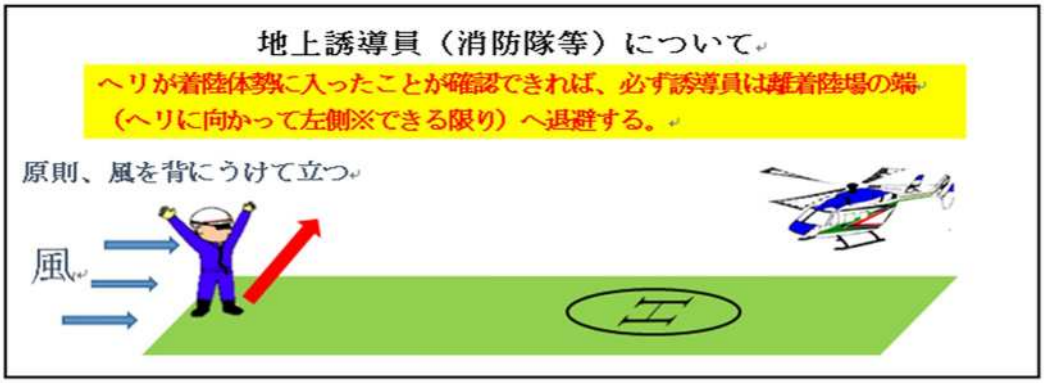
エ　臨時離着陸場の地盤の状況（草地、砂地、アスファルト等）

オ　その他必要事項

◆地上安全管理隊（消防隊等）の注意事項

ア　着陸場の安全管理、風向風速の確認、無線交信、散水、飛散物の確認及び固縛、付近通行人の誘導等の地上支援を行う。

イ　ヘリから着陸する旨の無線連絡が入り、進入するヘリが見えたら、地上誘導員は下図のように着陸場所の風上の中央端に立つ。



ウ　地上誘導員は、着陸場所を示すために、ヘリに向かって両手をＹの字に挙げて合図をする。

エ　ヘリが着陸場所に向かって進入し、目測で約 500m地点（着陸約 15 秒前）に到達してヘリが着陸体勢に入ったことが確認できれば、上図のように地上誘導員から見

て左側（赤矢印の方向）へ退避する。

【地上誘導員が左側へ退避する理由】 ① ヘリが着陸に失敗した際に事故に巻き込まれないようにするため。 ② 地上誘導員の動きが右席に座っている機長から見えやすいようにするため。 ③ 風の影響（特に背風）で予定していたヘリ着陸場所より前方へ接地する場合や進入をやり直す場合があるため。

オ　地上誘導員は左側への退避が完了すれば、再び進入中のヘリに注意を払い、着陸場所の安全管理を継続する。

カ　着陸場所の安全が確保できない状態（着陸場所に人が進入したり物が飛散する等）になった場合、地上誘導員はヘリに対して着陸しないよう両手で「×」サインを出す、もしくは無線で知らせる。

キ　着陸したヘリへの接近は航空隊員の合図及び誘導により、ヘリの前方向から、周囲の状況に注意しながら歩いて接近する。

ク　目を保護するため必ず防塵メガネ等を装着する。

ケ　地上誘導員や救急隊員は資機材や帽子、書類、医療用具包装紙等の飛散に注意し、常にヘリの動向に注意を払う。

コ　テールローター付近には決して近づかない。また、メインローターの回転範囲内に入る場合は姿勢を低くし、携行資機材は自分の目線より高く上げないようにする。

以上